

ロータリーの歴史から学ぶ

1. はじめに

寒河江ロータリークラブに入会して 20 有余年。入会 15 年目にクラブ会長をさせていただき、恥ずかしながら、その時から本格的にロータリーの勉強を始めたような気がします。それまでは諸先輩からの口伝えや講話などの耳学問が中心で、生意気にも、それで自分なりにロータリーを概ね理解していたつもりになっていたのでした。

クラブ会長をするにあたり、当クラブ会員でもある安孫子貞夫パストガバナーの御自宅へ御挨拶に伺ったところ、お祝い（の学習教材？）として「ロータリー通解＜A Talking Knowledge of Rotary＞」（Guy Gundaker：著、小堀憲助：訳並びに解説）という本をいただきました。実は、私のクラブ会長時代、この本を何度となく読み返しては、例会での会長挨拶で何回も引用・紹介させていただいたことが、私自身のロータリーに対する理解の第一歩だったような気がします。言い換えれば、この名著のおかげで、それまでの耳学問が、私の頭の中で多少なりとも整理・統合されたように思うのです。



もう一つ、私のロータリーに対する理解という点では、安孫子貞夫パストガバナーの御推挙もあり、私を国際ロータリー第 2800 地区の職業奉仕委員に抜擢していただいたことを挙げなくてはなりません。その時の地区職業奉仕委員長は、ロータリー歴が長く、第 2800 地区で幾つもの役職をこなされてきた大ベテラン、そして今も敬愛してやまない上杉勝己氏（米沢中央 R C）でした。

実は、それまで第 2800 地区の職業奉仕委員会が主催する職業奉仕セミナーは、パストガバナーが基調講演をするというのが定番でした。それを上杉氏は、“今年度の職業奉仕セミナーの基調講演は、パストガバナーではなく、委員長と委員だけでやります”と明言されたのです。要するに、地区職業奉仕委員は、上杉委員長から職業奉仕の徹底的な大勉強を強いられたということです。

私が大勉強した内容は、職業奉仕を中心としたロータリーの歴史についてです。というのも、私ごときが諸先輩の前で「職業奉仕とは？」を語るなど、恐れ多くてできません。しかし、歴史についてなら、過去の記録通りに事実を語るだけで良いので、私でも何とかやれるだろうと考えたからです。

幸いなことに、インターネットが発達した今日、様々な情報がネット上に溢れています。ロータリーに関する情報にしても、文献や論文をはじめ、講演録や書物まで数えきれないくらい提供されています。それらの中から、私はロータリーの歴史や記録に関するものを読みあさり、しかもなるべく「原文（英語）」のまま読むことを心がけました。実は、そのおかげで意外なことを発見したのです。

発見の一つは、今までの耳学問で「ロータリーの定説」と信じて疑わなかったことが、歴史の流れや残された記録の原文に照らし合わせてみると、実は間違っていると判断せざるを得ないものが少なからずあったということです。

もう一つの発見は、特に国際ロータリー（R I）が推奨している書物にみられる傾向ですが、ロータリー関連の書物では、過去の歴史が美化されて記されている（あるいは、都合の悪いことは触れられていない）場合が少なくないということです。これは、美化された歴史に閉口したという意味ではありません。むしろ、美化の陰に隠されていた多くの事実を知るにつれて、「ロータリーというのは、実は人間臭くて、泥臭くて、ずるくて、けなげで、真摯で、誠実で、葛藤があって、苦悩があって、喜びがあって、だからこそ立派で誇り高い伝統が築けたんだ」と思うようになり、ロータリーをますます好きになってしまったという意味です。

いずれにしても、ロータリーを正しく理解するには、ロータリーの歴史や記録を原文のまま忠実に読み、かつ良い面も悪い面も広く深く詳細に至るまで学ぶことが大切だということを、私は思い知りました。特に、ロータリーに関する書物の日本語訳には問題が多く、上述の「A Talking Knowledge of Rotary」訳者である小堀憲助氏も、それを深く嘆いておられます。

さて、前述の上杉氏は、私を次の地区職業奉仕委員長に推薦し、地区の役職から引退されました。以来、3年に亘り、私は第2800地区の職業委員長を仰せつかってきました。幸いにも優秀な後進が育ってきたので、そろそろ道を譲るつもりでいたところ、地区ロータリー情報委員長（当時）の高橋寛人氏をはじめ、各方面の方々から「これまで学んできたことを、記録に残してはどうか」というお誘いをいただいたのです。



【ロータリー最初の4人】 左から
鋤山技師 Gustavus E Loehr
石炭商 Silveste Schiele
洋服仕立業 Hiram E Shorey
弁護士 Paul Percy Harris

確かにロータリーの歴史や記録を原文のまま読み、かつ自分なりに理解していく作業は、それなりに大変です。そういう意味では、そのような作業を通じて得られた知識や考えをまとめておくのも、少しは後進の役に立つかも知れないと思うようになりました。そこで、その旨を新関彌一郎ガバナー（当時）に相談したところ、すぐに御快諾をいただき、国際ロータリー第2800地区のホームページに順次掲載することになったのです。さらに、池田徳博ガバナーエレクト（当時）の御配慮により、次年度以降の同ホームページにも掲載を続けていくことになりました。

場合によっては、これまでの「ロータリーの定説」とは異なる内容を記すこともあるでしょう。もちろん、そのように論考した根拠についても合わせて明示するつもりですが、ロータリー通の先輩諸氏からは、「それは間違った解釈だ」と批判される箇所もあるかと思います。また、資料原文の翻訳については、原則的には諸先輩がこれまで提示されてきた日本語訳を尊重していますが、敢えて私なりの日本語訳に変更したものも少なからずあります。もちろん、ご指摘をいただければ、必要な加筆修正は厭いません。また、著者名を明記させていただけるなら、このコーナーに誰でも原稿掲載ができるようにしていければと考えています。そうしたことを通じて、ロータリー論議が活発になり、ロータリーに対する理解が深まっていく中で、ロータリーのさらなる実践が盛んになっていくことを願って止みません。

<追記> 2016年7月、国際ロータリー第2800地区のガバナーエレクトを拝命することとなりました。

(2014年5月1日 初稿、2016年7月3日 最終改訂 文責：鈴木一作)